



AOUGメンバーの皆さん(11月のAOUG定例会より)

参加のたびにやる気が生まれ、発見がある ウチナンチュのためのオープンなユーザ会

ARCHICAD 普及の急速な進展とともに、日本各地で「ARCHICAD ユーザの輪」が拡がりつつある。特に有志によるユーザグループなどユーザコミュニティの創設が活発化し、すでに名古屋や関西、九州など、各地にユーザ会が誕生し活動を開始している。中でも最も新しいグループの1つが、沖縄県那覇市を中心とする ARCHICAD 沖縄ユーザグループ(AOUG)である。今回は那覇市で開催された同グループの定例会の場を訪ね、グループ創設の背景と活動状況について伺った。

那覇中心部の好立地で拓かれる定期会合

晩夏の頃的那覇中心部、繁華街が賑やかさを取り戻す午後7時過ぎに、「国際通り」や「県庁前」駅からも近い或るビルを訪ねた。このビルの9階ラウンジで、ARCHICAD 沖縄ユーザグループ(以下 AOUG)の定例会が開かれているのである。

「以前は沖縄県建築士会の会議室等を借りていましたが、少しでもお金もかかるし部屋の予約の手間もあったので、今年からメンバーの所属する事務所のラウンジを提供してもらうことにしたのです」。

そういって、私たち取材班を笑顔で迎えてくれたのは、AOUG の幹事役を務めている株式会社国建の高江洲尚氏である。創業半世紀余の歴史を持つ地元設計事務所 国建の建築設計部で、高江洲氏は同次長を務めている。そんな高江洲氏に案内されて、部屋に一歩足を踏み入れるとすぐ、10数名の会員たちから口々に挨拶の言葉をかけられた。見ると大型のビデオモニタを中心に、自然木の風合いの大きな会議机を設えた落ちついた雰囲気空間に、10名ほどの AOUG メンバーの方々が集まっていた。

「現在、会員数は23名になりましたが、月

1回開いている定例会の出席者は平均14~15名です。今日はちょっと少なめです」。そう語る高江洲氏の紹介で、まずはメンバー各氏と挨拶を交わし、名刺を交換させていただいた。前述の高江洲氏を筆頭に、アトリエ設計事務所や組織設計事務所など様々な設計者の方、BIM 担当の方、また BIM サポートに特化した設計会社など、文字通り多士済々である。年齢も性別もさまざまだが、誰もが底抜けに明るい笑顔なのが印象的だ。

「メンバーの共通点は“ARCHICAD を使う設計者”ということくらいで、それぞれが所属している会社は本当にさまざまです。現状では沖縄本島の方がほとんどです」(高江洲氏)。離島を別にすれば、遠くてもクルマで1時間程度でやって来られる好立地に、居心地の良い集会所が確保されていることも、途切れず活動が続けられている理由の1つだろう。その意味では、沖縄はもともとグループを造りやすい環境にあった、と高江洲氏はいふ。その活動の中心となっているのは、ここで毎月1回開催される定例会である。内容はメンバーの交流と情報交換が中心だが、中でも人気が高いのが、メンバー有志による発表形式で行われる、ARCHICAD の操作に関する情報発信と情報交換だ。



ARCHICAD 沖縄ユーザグループ
幹事
高江洲 尚 氏
(株式会社国建 建築設計部 次長)



ARCHICAD 沖縄ユーザグループ
三嶋久美子 氏
(株式会社都市建築設計)



ARCHICAD 沖縄ユーザグループ
池村秀明 氏
(アトリエイケムラ 主宰)

ARCHICAD 沖縄ユーザグループ

<https://www.facebook.com/groups/117297735268840/>

本部所在地 沖縄県那覇市

代表幹事 高江洲 尚 (株式会社国建)

設立 2015年5月

活動内容 ARCHICAD 関連の勉強会、
情報交換、情報発信など



AOUG定例会



新規会員登録はface bookを利用 <https://www.facebook.com/groups/117297735268840/>

オープンで意外性に満ちた情報交換

「沖縄の場合、ARCHICAD の普及が遅かったため、基本的な操作でつまづくユーザも少なくなかったんです。そのため昨年のセミナーの参加者たちが「詳しい人に教わる場があるといいのにね」——と言いつつ、全体的な出発点になりました。こんなふうに気軽に始まった集まりだっただけに、定例会での情報交換もそれほど格式ばったやりかたはしていない。

「“こういうことで悩んでいます”とか、“こんなやり方はどう?”とか。発信したい人が自由に発表し、それを皆で考え意見しています。ここでは誰も情報をしまい込んでおらず、アウトプットしてくれますよ」。だから発表の順番を決めたり次回テーマを決めたりもしない。自由でオープンな雰囲気、宿題など出さずにできるだけ参加のハードルを下げていけるのである。

もちろんユーザの操作スキルはさまざまだから、発表の途中で発表の主題とは別の確度から質問が飛び出して、意外な発見につながることも多い。やりとりはしばしば思わぬ方向へ転がっていく。——だからこそ面白いし、役に立つのだとメンバーは口を揃える。株式会社都市建築設計の三嶋久美子氏は語る。

「たとえば ARCHICAD を操作しながらの発表で、講師役が何気なく行った操作が初めて見るテクニック、ということもよくあるんです。“今の何!?”、“もう一度やって!”って(笑)。本筋以外にも無数のヒントが隠れていてすごく勉強になります」。三嶋氏によれば、比較的多くの企業の BIM 担当は 1 人で任されて横の繋がりも少なく、AOUG 設立以前は相談できる仲間もほとんどいなかったという。

「サポートだけを相手に孤独に勉強していたので、自分のやり方が正しいのか分からなくなること多くて、正直とても心細かったですね。それがユーザ会で“仲間がいる! 1人じゃない! と思えるようになって。それだけですごく心強いですよ」(三嶋氏)。

もちろん熟練した ARCHICAD 使いのユーザも参加している。一級建築士事務所アトリエケムラの池村秀明氏は、さまざまな操作法から GDL の活用まで、定例会では発表役を務めることも多い。

「私は他社 CAD から乗換え組で、BIM にも以前から取り組んでいたため、わりと早く ARCHICAD を修得できました。それでも少しでも楽に描きたいことには変わりありません。実際、他の方の使い方を見ているだけでいろいろ発見があるし、この集まりは本当に貴重な機会なんですよ」(池村氏)。

ウチナンチュならではの大きさ

メンバーたちによれば、もともと公共工事が多い沖縄では、公共工事の BIM 化の進展とともに、ARCHICAD ユーザが急増しているという。これにともない、以前はなかったゼネコン等からの入会希望者も増えている。

「会員が増えてきたので、会則などもリニューアルしていこうと考えています。操作に関する発表や質問も、実務に関する部分は守秘義務も絡んできますからね」(高江洲氏)。

もちろんオープンな雰囲気は守りながらユーザ会としての体裁を整え、合わせてその取組みの幅も広げていきたい、とメンバーは考えている。たとえば ARCHICAD に関する発表も、図面化やデータ変換など関心が高いテーマを設けるのも 1 つの方法だろう。

「他にもたとえば、ARCHICAD による BIM を使って実際に建った建物の見学会なども、皆のテンションをさらに上げられそうです。とにかくこの良い環境とウチナンチュ(沖縄人)としての大きさを活かして、楽しく続けていきたいですね」(高江洲氏)。



AOUG定例会



AOUG定例会

GRAPHISOFT
A NEMETSCHKE COMPANY

グラフィソフトジャパン株式会社

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12赤坂アピル 4F TEL:03-5545-3800 / FAX:03-5545-3804
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-5-25 新大阪ビル6F TEL:06-6838-3080 / FAX:06-6838-3081

Graphisoft and ARCHICAD are registered trademarks of Graphisoft. All other trademarks are the property of their respective owners.